

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600179		
法人名	医療法人杏林会三股病院		
事業所名	グループホームみみつ2号館(ユニット名:富士)		
所在地	宮崎県日向市美々津町2975番地		
自己評価作成日	令和4年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和4年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者様中心の支援を常に心がけています。 ②入居者様の意志を尊重した楽しい暮らしを支援します。 ③「我が家」として生活して頂けるような設計にし、リビングの一角にふれあいコーナーを設置。訪れてきて下さる方々との交流の場づくりを目指しています。 ④農園で四季折々の野菜を入居者様と一緒に育て収穫し調理します。 ⑤馴染みのある暮らしの継続を支援し、入居者様やご家族様の希望に応じて、看取り介護にも力を入れています。 ⑥職員は、医療や福祉の有資格者であり、資格を有さない職員は必要な研修を受講できるよう研修体系を構築しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は静かで落ち着いた空気が流れている。入居者にとってホームは生活の場であるということ職員が十分に理解し、静かでさりげない見守りが実施されている。コロナ禍で人との関わりが狭められる状況であっても、できる範囲で外出の支援に取り組み入居者個々の思いをくみ取ったケアに取り組んでいる。ホームでの看取りも積極的に実施し、その後の振り返りを大切にして継続に向けた学びの機会を設けている。「入居者様中心の支援」という理念を職員一人ひとりが理解し、理念に基づいたケアが展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合いを積み重ね、理念を作りあげた。毎朝、唱和を行い職員が個々に目標を設定し、支援を行い、終礼時に振り返るようにしている。	事業所理念を玄関に掲示し、朝礼時に唱和している。毎月のケア会議において理念に沿ったケアが行われているかの振り返りを行い、理念を基に毎月の目標を設定するなど理念を意識したケアが行われるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々やコミュニティーカフェの参加を計画していたが、コロナ禍にあり、交流が行えていない。防災面に関しては、地区の方々や災害図上訓練に参加する機会を頂き、少しずつ関係性を築けている。	ホームは民家や公民館が近く、散歩などを通して地域住民との関係が築かれている。現在コロナ禍の状況により実施困難ではあるが、ホームの一角を利用したコミュニティーカフェの開催を計画し、より関係性を深められることを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や日常的な交流も実施できていない状況にあり、文書でご報告するなどの代替措置をとっている。地区区長をはじめ、民生委員の方々へ案内を配布しご意見やご感想をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にある為、運営推進会議は行えていないが、2ヶ月に1度、情報開示を含めた文書を配布し、ご意見やご感想をいただいている。頂いた意見を日常的なサービスへ反映させている。	コロナ禍の状況から現在は文書での会議開催となっている。会議録や資料は入居者家族全員に配布し、家族からの意見も収集できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村にもケアやサービス向上の為の相談を随時行っており、指導や助言をいただいている。	市の担当者とは状況の報告を行ったり、アドバイスを受けたりと良好な関係性が築かれている。感染症予防に関する物品の配布を受けたり、ホームからの質問等にも早急な返答を得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、全職員が理解し、自分の言葉で述べることができ実践できるように努めている。また、身体拘束に該当しなくとも、虐待の芽となるような不適切なケアについて考えたり、意見交換ができるよう1回職員会議を開催している。	委員会を設置し、年間計画に沿って研修を行っている。職員には身体的な拘束のみならず、言葉かけに関しても拘束に繋がる根拠を示しながら指導を行い理解を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、全職員が理解し支援やサービスの向上に努められるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が入居されており、職員で学ぶ機会をいただき、必要性について関係者と話し合いながら活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事前に施設見学を行って頂き、十分な説明を行い、ご家族様やご本人の疑問点にも気軽に相談ができる体制にある。入居者様やご家族様が安心と納得をして頂いた上で入居できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に面会時や電話、郵送にて要望や意見を伺い事業に反映できるようにしている。	面会が困難な状況から面会部屋の設置を求める意見があり、感染対策を十分に取しながら実施できるよう取り組んだ。ホームでの活動報告や意見収集などは電話やSNS、手紙を利用するなど意見収集のための工夫がされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の数だけアイデアがある。月1回の職員会議を行い、職員の意見や要望に耳を傾け、意見交換しやすい環境づくりに努めている。改善することは話し合い、改善するよう努めている。	年2回人事考課の面接を行っている。個別での面談であるため、意見が上がりやすい。管理者は勉強会の希望や業務に関して出された意見を早急に解決できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し職員自身が自分を振り返る機会づくりや、要望等にも耳を傾けるようにしている。また、資格取得費や研修費負担など向上心を持って働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンラインを活用した研修への参加や事業所内で毎月勉強会を開催している。認知症介護実践者研修を受講する職員が4名、介護福祉士実務者研修を受講する職員が2名おり、力量を把握しながら研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある施設とのネットワークづくりは行っており、気軽に相談連絡し合える体制づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居者様やご家族様より話を聞いたり、介護支援専門員からの情報収集に努め、不安や要望について把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学してもらったり、担当者会議の場でも、入居者様やご家族様より不安や要望等を聞き、今後の生活の場に向けた関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設の対応が困難な場合は、入居者様やご家族様の理解を得た上で、他のサービス利用を視野に入れた対応ができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側という関係性ではなく、色々なことを教わったり、一緒に活動に携わりながら、暮らしを共にし信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の思いを傾聴し、ご家族様にその思いを伝えることで、離れて生活していても関係が良好に保たれ、共に支えていける関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、ガラス越しでの面会やビデオ通話を活用している。ご家族様や知人を対象に葉書を一緒に書きながら、近況報告を行っている。	馴染みの場所へ出かけたり、人との関わりが困難な状況であるが、ドライブや散歩などを積極的に行い、「海が見たい」「自宅が心配」という入居者の希望を叶えられるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様間でトラブルにならない様、職員間で情報共有に努めている。一人ひとりの持つ力を発揮できるよう支援している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様から認知症の症状についてのご相談をいただいたり、入居申し込みに来所される方もおり、継続した関係づくりに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回、ケア検討会を行い、入居者様の思いや意向を汲み取り、一人ひとりに応じた支援の方法を考え、職員全員で共有し、取り組むようにしている。	認知症介護実践者研修受講を通して入居者の情報収集を改めて行ったり、日々の暮らしの中で聞いた、入居者本人の言葉や行動から思いをくみ取り、個々の思いに寄り添えるケアに努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の得意としていることや好きな物に触れ合えるように支援している。生け花をして過ごす方や金魚を居室内で飼っている方、新聞を購読している方もいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握しながら、又、入居者様間の人間関係が円滑に図られるよう座席の配置替えを行ったり、リビング内の模様替え等を行っている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、入居者様やご家族様へ生活に対する意向や希望を確認し、計画に反映している。又、職員全員が、計画作成担当者と共にモニタリングを実施し、計画や支援につなげている。	毎月の職員会議で入居者に関する情報を共有し、介護計画の評価やモニタリングに活かしている。遠方の家族へは資料の送付や電話などを利用して説明を行い、希望を聞いている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画内容に沿った記録の統一がなされ、その中で職員が気づいたり情報共有が行えている。毎月ケア検討会を行っており、課題を見つけて話し合い、よりよい生活の改善に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の希望する生活や医療が行えるよう、協力医療機関への相談や、意向に応じて専門医受診を行う等多機能化に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元であることで安心して生活されている。地域でのドライブ、花見、季節の食材を畑で収穫したり、生きがいや楽しみがもてるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携を密に図りながら支援している。入居者様やご家族様にとって、かかりつけ医がいることで安心して医療を受けられている。	入居時にかかりつけ医に関する希望を確認している。協力医療機関の往診が毎月行われており、入居者本人や家族の安心に繋がっている。受診結果はその都度家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中や申し送りの際の情報交換において、介護職と看護職が常に情報交換及び共有を図り、医療機関への受診までの体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入退院時連携シートを活用し、病院との情報交換を行っている。また、治療期間の確認や入院先に出向き入居者様の状態について把握するなど、スムーズな退院支援ができるよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設にできる事を理解して頂いた上で、入居者様やご家族様との話し合いの場をもち、意向に沿ったケアに努めている。職員も看取りケアについての勉強会を通して、ケアの技術向上とチームケアの体制づくりができています。	職員間での勉強会やマニュアルの作成、看護師や医師との連携など体制を整えて看取りを実施している。入居者家族へはホームで実施可能なこと、困難なこと、また看取りに対する思いなどを記した文書を用いて説明を行っている。看取り実施後は振り返りの時間を設け、継続して取り組んでいくための学びの機会が作られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡体制と初期対応について体制づくりができています。職員は院内研修や外部研修等に参加し、知識や実践力を身につけるための研修計画を実行できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害訓練を行い、入居者様や職員も危険管理について知識を深めることができています。また、避難経路や避難場所についても地域住民の協力が得られている。	地域の災害図上訓練にホームから公民館へ出向き参加した。地域の協力を得やすい環境が作られるよう取り組んでいる。今後は地域住民や消防署、地域の消防団などに参加を呼びかけ、合同での訓練を実施できるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し、個人情報については秘密を守り、安心して生活できるよう努めている。ユマニチュードやカンファクトブル・ケアに関する勉強会を開催し、さりげないケアの提供に努めている。	ホームは入居者一人ひとりの生活の場であるということを職員が理解し、静かでさりげない支援が行われている。レクリエーションは無理強いせず、個人のペースが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、入居者様が自己決定できるような声かけを実践している。職員が日課を決めるのではなく、入居者様に選んで決めてもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は予め決めておらず、その日の天候や入居者様の体調に応じて活動を選択できるようにしている。趣味や興味があることを支援に繋げられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて普段着を選んで頂いたり、散髪をする際も職員がヘアスタイルを決めるのではなく、入居者様に決めて頂いている。ヘアオイルやボディクリームを使用し香りを楽しまれている入居者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるメニューを考え、入居者様の希望に応じた食事づくりを行い、共に調理や片付けを行っている。花見をしたり、毎年庭のフキを収穫し佃煮づくりをしている。	食事は毎食ユニットで作られている。職員は入居者と一緒に畑の野菜作りや収穫、調理を行い季節ものを多く取り入れている。法人内の管理栄養士から月に1回栄養面に関するアドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事の支援をしている。お粥食や刻み食の方でも、見た目にも配慮している。水分量は水分チェック表を用いて職員が水分量を把握できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関である、歯科の歯科衛生士が月1回来所し、評価や指導を受けている。個々の口腔ケアの方法に応じたケアを行うことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンチェックシートに記録を取り、尿や便意の維持を目的に、トイレ内での排泄を基本としている。意思を伝えることが困難な場合は、行動や表情から汲み取るように支援している。	重度の入居者には職員が2名体制で介助を行うなど、基本的に日中はトイレでの排泄を促している。入院をきっかけにおむつ使用に変更になった入居者へは法人内の理学療法士にアドバイスを仰ぎ、ケアへ活かしながらおむつ外しが実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んで頂いたり、食事のメニューに野菜を取り入れるなどして、自然排便が定期的にあるように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴スケジュールにはなっているが、希望があれば毎日でも入浴できる支援を行っている。湯温や入浴時間の希望を伺うようにしている。	ホームには一般浴槽と機会浴槽が設置されており、入居者の機能に応じて使用できる。毎日お湯を沸かし、季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでもらっている。こだわりのボディソープやシャンプーを使用される入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を調整(温度、照明、寝具の調整)し、快適な環境で十分な睡眠がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は服薬管理チェック表を使用し飲み忘れがないよう努めている。状態に変化がある場合は看護職員に報告や相談を行い、医師の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回ケア検討会を行い、役割や支援の方法について検討している。愛好している金魚の水槽掃除や餌やり等、入居者様と一緒に楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近辺の海岸端への散歩や神社参拝などの外出支援を行ったり、ドライブを取り入れながら、ストレスをためずに、気分転換ができるよう心がけている。	ドライブや散歩、畑作業や神社参りなどを実施している。コロナ禍で外出が困難な中、入居者の活動が閉鎖的にならないよう、できる範囲で気分転換が図られる機会を設け、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは職員が管理している。コロナ禍にあり、入居者様が買い物に行くことはない。入居者様に買い物内容を確認し、職員が出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が2名おり、電話連絡を行っている。他の入居者様も、施設にある電話やLINEを使用したビデオ通話、葉書を担当職員と一緒に記入し、ご家族様へ送るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に、入居者様と一緒に作成した、季節を感じられる作品を飾ったりしている。玄関先のプランターの花の手入れや花を摘みリビングのテーブルに飾ったりしている。	定期的な検温や換気など感染対策がとられている。共用スペースや居室など全体的に整理整頓が徹底され、明るく落ち着いた空間が確保されている。壁には職員と入居者が共同で作成した壁飾りが掲示されたり、玄関には入居者が生けた花が飾られており、季節感を感じられる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席とソファがあり、好きな場所に座りテレビを観たり、話をしている様子がある。2ユニットあるが、ユニットへの行き来も自由に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合わせてベッドのレンタルがあり、壁には家族の写真が飾られ、使い慣れた家具の持ち込みなどで安心して過ごしていただけるような工夫をしている。	ベットや寝具、棚など入居者へは使い慣れたものを持ち込んでもらっている。居室の掃除は職員と一緒に入居者にも手伝ってもらい、清潔が保たれている。家族の写真の掲示など居心地の良さが配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ、浴室には手摺を設置している。ご本人がくつろげる位置にテレビや時計等を設置している。		